

## エビデンスベースの学校改革

# 「スクールワイドP B S」を推進していくための 管理職向けハンドブックの作成とその評価

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科  
高度教職開発専攻スクールリーダーシップコース

学籍番号 199105

氏名 木之下浩一

大学院主指導教員 長谷川和弘

大学院副指導教員 森田 英嗣

## 1. 背景

学校全体で取り組むポジティブ行動支援「スクールワイドP B S」(School-Wide Positive Behavior Support)は、まずアメリカ合衆国で行動支援システムの一つとして開発されたエビデンスベースの取組で、応用行動分析学が基盤となっている。

近年、暴言や体罰・子ども虐待・いじめ等、子どもたちを取り巻く問題は由々しき状況にある。筆者勤務校1もこの状況にあった。しかし、SWPBSの取組を2018年度2学期から開始した結果、導入当初で取組状況の学級格差があり、試行錯誤段階でのSWPBSであったが、3学期末までに問題行動が減少し、落ち着いて学習している学級も増加した。「SWPBSはいくつかの事項を順序良く踏まえると比較的スムーズに展開していくことが可能となっていく」ということが分かってきた。このいくつかの事項を順序良く、分かりやすくまとめられた手引書があればと考え、SWPBSHBの作成研究を開始した。

## 2. SWPBSHBの作成

SWPBSHBの作成は、勤務校1・2でのSWPBS実践研究から明らかになってきたことや、それぞれの好事例を取り入れるようにして行った。その際、読者がイメージしやすくなるように編集することを目指すとともに、教職員を対象としたSWPBSの実行度評価のチェックリスト[日本語版Tiered Fidelity Inventory (TFI)]に沿って各章を構成することとし、各章の順に沿って取組を進めていけば、自ずと実行度が上がってくるという期待を込めて編集した。参考文献等によると、字体はHG丸ゴシックM-PROにすると判読性が高く、親しみが持てる可能性が高くなることが分かった。1行の字数については、読者の目の左右横方向への動きが多いと疲れが生じてくる可能性が高くなるということから、1行の字数を用紙の半分

ほどの幅に抑えるようにした。また、近年モバイルの普及が広まり、LINE等によるコミュニケーションの機会が一般化している状況をヒントとし、LINE的な吹き出しと架空の登場人物達による問答形式として編集した。

なお、勤務校2において、研修会での資料としてのテキスト版の必要性と学級規模で担任や保護者と取組を開始する際の、短時間で説明可能な概要版の必要性を感じたため、モバイル版・テキスト版・概要版の3部構成（別添資料参照）で作成することとした。

### 3. SWPBSHBの評価

勤務校2が位置する区内の管理職の方々を中心に8名の方々へ、半構造化インタビューを依頼し、質的データを得た。（実際に得られた質的データは、7名であった。）このようにして実施した半構造化インタビューによる質的データによって、①SWPBSについての内容理解面の検証と改善すべき点、②SWPBSHBの判読性の検証と改善すべき点、の2項目について考察し、更なる改定作業を行った。

寄せられた評価（半構造化インタビューにより得られた質的データから得られたキーワードをまとめたもの）を念頭に置きながら、改めてSWPBSHBを見直した。特に改善点はないという肯定的な評価が多く寄せられているが、見直す度に気になる箇所があったので適宜変更した。なお、専門家から指導を賜った部分やSWPBSの導入・実行の際に不可欠な内容や学術的な用語等については表記を変えないように心がけた。「更なるコンパクト化を目指してほしいが、エビデンスの説明やマトリクスなどのツールのデータのひな形などの追加があればありがたい。」については、SWPBSHB概要版に反映させる方向で検討した。SWPBSHBは、各種の端末での閲覧を念頭に置き、PDFでの配信提供を予定しているが、SWPBSHB概要版については「ワード形式」での配信とし、必要に応じて読者が加工することも可能にしていくことで応じていきたい。

### 4. 総合所見

勤務校1・2で、SWPBSの実践研究とSWPBSHBの作成に2018年度から続けてきたが、その間に、「SWPBSが従前からの各学校で行われてきた取組を生かしていくことができ、むしろその取組を吸収・統合する枠組みと考えられること」、「SWPBSは、その要点を工夫・応用して、学級規模での取組や緊急介入的な取組にも効果を発揮すること」という側面がSWPBSにはあるということも分かってきた。きっと、他にも効果的な側面が存在するであろうと予測する。

筆者自身、生徒指導・学習指導について各種の取組を行ってきたが、即効性・応用性・取り組み易さ等、どれをとってもSWPBSの効果は群を抜いていた。エビデンスベースであるSWPBSに取り組んでいく学校は、今後、増加していくと予想される。別添資料のSWPBSHBが効果的に活用されれば幸いである。なお、SWPBSHBは今後実際に活用されながら、評価され改定されていくべきである。SWPBSHBを実際に活用し、SWPBSの実行度向上面の検証と改善すべき点についての考察及び更なる改定を行う研究に、今後も継続して取り組んでいきたいと考える。